

(財)エンジニアリング振興協会 地下開発利用研究センター

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-4-6 CYDビル
TEL 03-3502-3671 (代) / FAX 03-3502-3265
ホームページアドレス ; <http://www.ena.or.jp/GEC/>
E-mail アドレス ; gec-adm@ena.or.jp

第 254 号 / 2010. 11

Index

- 第 2 回 運営会議 報告
- 「ミュー粒子を活用したマルチ測定機器に
関するフィージビリティスタディ」
マルチ計測機地下実験見学会
- 地下利用推進部会 第 2 専門部会
江戸東京再発見街めぐり
(神田・御茶ノ水) 調査報告
- 地下情報化部会
武蔵野タワーズ地下駐輪場調査報告
- 新任挨拶
- 会員の皆様へのお知らせ
□第 330 回サロン・ド・エナ開催のご案内

■第 2 回 運営会議 報告■

平成 22 年度の第 2 回運営会議が 10 月 7 日(木)
16 時より、当協会 6 階会議室において開催されま
した。

入澤常務理事の協会挨拶、田代 民治委員長(鹿
島建設(株) 取締役副社長 執行役員)のご挨拶に続
き、経済産業省 産業経済局 産業施設課 課長補
佐 小宮 康則様の来賓ご挨拶の後、田代委員長の
司会により議事が進められました。以下の議題に
ついて、審議・報告があり、審議事項については
いずれも承認されました。

- 1.平成 23 年度の補助事業候補テーマについて
(審議)

- 2.平成 22 年度事業進捗状況について (報告)

- ・補助事業活動状況
- ・受託事業活動状況
- ・地下利用推進部会等活動状況
- ・地下情報化部会活動状況
- ・研究企画ワーキンググループ活動状況

- 3.その他 (報告)

- ・平成 22 年エンジニアリングシンポジウム開
催について
- ・平成 22 年度第 2 回日帰り見学会について
- ・平成 22 年度国内見学会について

次回第 3 回運営会議は、平成 23 年 3 月中旬の
予定です。

■「ミュー粒子を活用したマルチ測定機器に関する フィージビリティスタディ」マルチ計測機地下実験見学会■

* 本事業は、(財)機械システム振興協会が(財)JKA の競輪補
助金の交付を受け、その財源をもとに受託した事業です。

平成 22 年 10 月 6 日に、(財) 機械システム振
興協会より受託している本事業のマルチ計測機に
関する現場見学会を開催致しました。本事業は平
成 20 年度より調査研究を開始し、3 台の試作機を
製作し、地下での計測データに基づいて、トモグ
ラフィー技術によって地下の空洞を可視化でき
ることを明らかにしてきました。残された課題であ
る計測時間の効率化を目的に、22 年度は 5 点を同
時に計測できるマルチ計測機を製作し、都内の地
下で 8 月下旬より計測をしています。

現在までの計測データでは、昨年度の試作機と
比較して 5 倍の効率で計測できることが明らか
になり、かつ、計測精度もほぼ同等との結果を得
ています。

当日は、(財) 機械システム振興協会の方々、
本事業の委員会委員、関係者計 21 名が参加し、
マルチ計測機に関して熱心な質疑応答が行われ
ました。

今後、来年 1 月まで計測を継続し、3 次元トモ
グラフィーを適用して、地下空洞を可視化する予

定です。

現場計測には、委員会委員である東京地下鉄(株)様のご協力をいただきましたことに御礼申し上げます。

ます。



マルチ計測機実験見学会



22年度マルチ計測機

■ 地下利用推進部会 第2専門部会 ■

江戸東京再発見街めぐり（神田・御茶ノ水）調査報告

地下利用推進部会第2専門部会は、都市再生のための地下利用を調査することが目的であるため、江戸時代～現在に至る東京の街の変遷を実体感し、調査・検討の参考資料とすべく、平成22年10月8日（金）に江戸東京再発見コンソーシアム（以下、CREW）主催の江戸東京再発見街めぐり～千代田区 神田・お茶の水コース～に参加しました。

江戸時代には、この神田・お茶の水コース付近、大手町から神保町周辺は、江戸城のお膝元として武家屋敷が建ち並び、その周辺には商人街が形成されていたそうです。

当日の見学ルートは、庭のホテル東京をスタートし、その後、豊島屋本店→山の上ホテル→明治大学博物館→聖橋→天野屋→神田神社（神田明神）→ゴール地点の神田明神そば屋「きりや」に至るルートでした。全行程に CREW ガイドが同行し、コースの文化・歴史を詳しく説明していただくとともに、各見学地では、それぞれの関係者から説明を聞くことができ、大変有意義なものでした。以下、見学地の概要を紹介いたします。

【庭のホテル東京】

当ホテルが位置する千代田区三崎町は、江戸時代、幕府の講武所や武家屋敷が建ち並び城下町として栄え、明治時代になると三崎三座を中心に商業と娯楽の町として賑わいました。

【豊島屋本店】

画師長谷川雪旦氏が描いた有名な「江戸名所図会」巻の一（全7巻 20冊）に、豊島屋の白酒売り出しの絵があります。雪旦氏の絵にあるように大変な賑わいで、大いに繁盛したと言います。

【山の上ホテル】

建物は、昭和12年に財団法人日本生活協会によって建てられました。昭和29年1月、創始者である吉田俊男氏が「山の上ホテル」として開業。多くの作家や文化人たちに愛された文豪の宿としても有名。

【明治大学博物館】

商品部門は商品を通した生活文化のあり方を、刑事部門は法と人権を考え、考古部門は人類の過去と多様性を取り上げています。

【聖橋】

昭和2年架橋。関東大震災の震災復興橋の一つ。橋の名称は、ニコライ堂と湯島聖堂の2つの聖堂にちなんで一般公募で名づけられました。

【天野屋】

江戸時代には、神田明神から湯島天神にかけて、糰屋、味噌屋が十数軒あって、天然の地質を利用して、地下約6メートル位の糰むろを築き、糰の製造の盛んな所でした。

【神田神社（神田明神）】

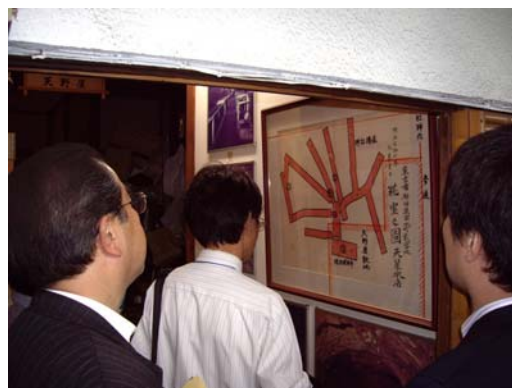
天平2年（730）に創建。元和2年（1616）に江戸城の表鬼門守護の場所にあたる現在の地に遷

座し、幕府により社殿が造営されました。以後、江戸時代を通じて「江戸総鎮守」として江戸の街

を見続けてきた神社です。



庭のホテル東京



天野屋地下の糺むろのトンネル

■地下情報化部会 武蔵野タワーズ地下駐輪場調査報告

「地下情報化部会」では、平成 22 年 9 月 16 日（木）に地下空間を利用した施設の調査を目的として、三鷹駅北口「武蔵野タワーズ地下駐輪場の調査を実施しました。

武蔵野市では、平成 17 年 4 月に「自転車等総合計画」を策定し、誰もが安全かつ快適に利用できる自転車環境の整備に市をあげて力を注いでおり、「基本的に歩道以外の場所に駐輪場を確保することが、駅周辺の路上放置問題を解決することにつながる」との考えのもとに推進されています。

JR 中央線三鷹駅前に建つ地上 28 階と 31 階のツインタワーマンション「武蔵野タワーズ」の北棟地下 1・2 階を武蔵野市が区分所有し、(財) 自転車駐車場整備センターが収容台数 1,500 台（一時利用 129 台、定期利用 1,371 台）の公共自転車駐車場を整備し、平成 22 年 4 月 1 日にオープンしました。防犯上、深夜は閉鎖され、利用時間は 4 時～翌 1 時 40 分（開場時間内は有人管理）とな

っています。主な設備は以下のとおりです。

武蔵野市では「武蔵野タワーズ」の開発事業者と協議を重ねた結果、宅地開発等に関する指導要綱に基づく公共用地の提供に替わる施設としてマンションの地下に駐輪場スペースを、また総合設計制度を導入するにあたり、周辺の道路用地を市へ提供させています。地下駐輪場のスペースは、マンションの建物を武蔵野市が区分所有し、(財) 自転車駐車場整備センターに設備の整備、運営管理を委託し、協定による一定期間経過後、武蔵野市に施設を譲渡するといったスキームで運営されています。

この紙面をお借りしまして、当日丁寧なご説明をいただきました武蔵野市 都市整備部及び (財) 自転車駐車場整備センターの関係者の皆さまに御礼申し上げます。

■主な設備

- ・電磁式ロック式ラック 129機
- ・二段式ラック、スライド式ラック、平面ラック
- ・防犯カメラ 32台、防犯ベル 11箇所
- ・インターホン 3機(各出入口)
- ・デジタルサイネージディスプレイ 2機
- ・消防設備(自動火災報知機等)、AED 1機



二段式ラック

■新任挨拶■

浅沼 博信（技術開発第一部 主任研究員）



10月1日付けで当協会地下開発利用研究センター技術開発第一部に着任致しました浅沼でございます。株式会社ダイヤコンサルタントからの出向です。

出向元の会社は、資源系の地質調査会社として発足しましたが、現在は土木設計部門を加えた総合建設コンサルタントであります。私は1995年の入社以来、官公庁（国土交通省、地方自治体等）発注の橋梁、カルバート、擁壁等

の土木構造物の計画や設計、既設構造物の点検、耐震補強設計等に携わってまいりました。

地下センターでは前任の太神さん、東谷さんの業務を引き継いでおります。これまで経験したことの無い業務を担当することとなり、少なからず戸惑いを感じておりますが、当協会および会員の皆様のお役に立てるよう努力してまいりたいと思います。

至らぬ所も多々あるかと思いますが、皆様方のご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

（平成22年10月1日着任）

■会員の皆さまへのお知らせ■

□第330回サロン・ド・エナ開催のご案内

日 時： 平成22年11月17日（水） 16：30～19：00（当協会 6階 CDE会議室）

テーマ：「シェールガス革命が資源マップを塗り替えるか？－世界の天然ガス市場への波紋を探る－」

講 師： 伊原 賢氏（独）石油天然ガス・金属鉱物機構

石油開発支援本部 調査部 上席研究員（工学博士）

講演趣旨： 米国発の非在来型天然ガスが、世界の資源マップを塗り替えようとしています。それをもたらしているのが「シェールガス」です。

シェールガスとは、シェール（頁岩）という固い岩盤層にたまったガスで、米国では膨大な埋蔵量が確認されていたものの、技術的に採収が困難で開発が見送られてきましたが、技術の進歩がこの問題を解決し、米国を新たな巨大天然ガス資源国に押し上げています。これにより、ガス価格も2008年6月をピークに下落しており、世界のガス市場に大きな影響を与えています。

このシェールガス開発には、その資源としての規模が大きいことから、エクソンモービルなどの大手石油会社も続々参入しており、我が国企業も参入を始めています。このうねりは、世界的展開を見せており、カナダ、欧州、中国などへの拡がり注目されています。

本講演では、最初に、シェールガスの登場で近年一変した米国のガス需給見通しとガス価格に与えた影響について触れ、これをもたらしたシェールガスとはどんなものか、また、このガスを含む非在来型ガスの定義と資源量も合わせ概説して頂きます。次に、シェールガスの開発に必要な主要技術と開発の現状や課題などを紹介頂くとともに、大手石油会社や我が国の企業も参入を始めているこの開発のうねりは、世界的な展開を見せていることから、その開発への見通しや問題点などを語ってもらいます。

終わりに、この「シェールガス革命」を念頭に、今後の世界における天然ガス市場への波紋や展望について語って頂きます。

申込要領： ホームページ(<http://www.ena.or.jp/GEC/>)又はFAXで事務局へお申し込み下さい。

地下開発利用研究センター 事務局 中村（TEL:03-3502-3671/FAX:03-3502-3265）

*会場の都合により、申込者が多数にのぼる場合は先着100名様程で打ち切らせていただきますので予めご了承ください。